

まちなかのにぎわい創出円卓会議 資料

第3回テーマ：まちなかのにぎわい創出に向けた取組について

●まちなかのにぎわい創出の方向性：

集客力のある公共施設をにぎわいの中核として、人々が歩いて回遊し、まちなかエリア全体ににぎわいを波及させる

- ✓ 三条市体育文化会館と図書館等複合施設を中核とし、にぎわいのエリア全体の面展開を目指す
- ✓ エリア全体に回遊性を持たせることで、スマートウェルネス三条の視点から、個人の身体活動量の増加により健康に資するとともに、にぎわいの可視化につなげる

まちなかの※「極」の維持

※三条市総合計画に掲げるまちづくりの方向性としての「多極分散型の都市構造の堅持」（地域の生活環境や歴史、文化を継承し、住み慣れた土地に住み続けることができるまちを目指す）があり、まちなかはその「極」の一つに位置付けている

人々の交流拠点の創造

目指す「まちなかのにぎわい創出」の姿

まちなかに市内外から人が集まり、集まるだけでなく、様々な形での交流を生み出すことにより、人のにぎわいの連鎖反応が起こり、個人や様々なコミュニティ、地域経済に活力が生まれている状態

スマート
ウェルネス
三条

意識せずとも自然と健康で幸せに暮らし続けることのできるまちづくり
(ヘルスリテラシーの有無に関わらず健康で幸せ = “健幸”となれる)

図書館等複合施設が供用開始される令和4年度末までを一定の目途とし、その都度、まちなかのにぎわい創出円卓会議に付しながら、各取組を進めていく

まちなかの「場」= 人々の目的地となる様々な場所・空間
コンテンツ= そこで提供される催事及び歴史的・文化的資源

まちなかの有力な「場」(= 公共施設) の魅力向上 (施設内のコンテンツ及び施設空間)



にぎわいの創出

にぎわい創出のためのコンテンツの発掘と磨き上げ (公共施設以外)



事業評価の実施： 令和4年度末までの期間を一区切りとして、にぎわい創出のための各取組を推進していくための成果指標（KPI）を設定し、毎年度末に事業評価を行う

- ✓ 毎年度定期的に成果指標に基づき事業評価を行い、その都度、まちなかの円卓会議に報告
- ✓ 事業評価を基に更に効果的な取組につなげる

- ✓ 評価を基に翌年度に必要な具体の取組を検討し必要な予算要求を実施（10月～11月）



ACTION

- ✓ 昨年度の振り返り及び今年度の取組の進め方を庁内において調整（4月）
- ✓ 取組内容等についてまちなかのにぎわい創出円卓会議に付し意見照会（5月）

PLAN

- ✓ 設定した成果指標により各取組の進捗状況进行评估（9月・2～3月）
- ✓ 事業評価結果を庁内で共有するとともに、まちなかのにぎわい創出円卓会議へ付し報告及び意見照会（10月・3月）

CHECK

DO

- ✓ 庁内関係各課及び民間のプレイヤー等により具体の取組を実施（随時）



成果指標の設定：まちなかの現状を数値化できる指標を設定し、正確な現状把握と事業効果の見える化を行う

- ✓ 成果指標（KPI）のほか、まちなかの現状（FACT）把握のための参考指標も併せて設定

各取組を進める上で注視すべきまちなかの現状（FACT）を把握するための参考指標 【長期的及び他の要因も含めて成果が表れる数字】

- ・市内及びまちなかの人口動態及び高齢化率、高齢者数
- ・平均寿命と健康寿命の差【SW関連指標】
- ・まちなかエリアの地価
- ・北三条駅乗降者数
- ・まちなかを乗降口とする公共交通（バス・デマンド交通）利用者数
- ・中心市街地の利用頻度及び目的＋商店街利用者割合【県による4年に1回毎調査】
- ・週一回以上外出する高齢者の割合＋活動している高齢者の割合【市による3年に1回毎調査・SW関連指標】

意見照会

？

他に適切な事業評価を図る指標はないか

毎年度の取組の評価として用いる成果指標（KPI） 【短期的に成果が表れる数字】

- ・市の補助金を活用した中心市街地の新規出店者数
- ・まちなかでテーマ型コミュニティとして活動する団体数【後期実施計画指標・SW関連指標】
- ・まちなかの公共施設利用者数【一部社会資本総合整備計画指標】
- ・まちなかの公共施設稼働率（※数字の見せ方の工夫は要検討）
- ・まちなかの一日当たりの平均歩行者数【後期実施計画指標・SW関連指標】

現地調査の実施：現在のまちなかのにぎわいの状況を正確に把握するために現地調査を実施し、得られた結果を各取組に活かす

- ✓ まちなか（ステージえんがわ前）における人の動き（平時及びイベント時）を計測し、現状を把握
- ✓ えんがわオープンカフェ（イベント）においては、参加者の詳細な属性を確認するアンケート調査も併せて実施

まちなかの現地調査の実施

意見照会

？

より効果的に実施するための調査手法等

- 調査目的：まちなか（ステージえんがわ前）における人の動き（平時及びイベント時）を計測し、現状を把握することで、今後の取組に活かす。
- 調査方法：5月～7月の休日（イベント時及び平時）と平日（平時）の各1日において、数取器による人的計測（2～3人体制）を実施
- 調査項目：①通行手段（自転車、徒歩等）②属性（性別、年代）③通行量



イベント来場者への
アンケート調査

ステージえんがわにおけるイベント（えんがわオープンカフェ）において、来場者に対するアンケート調査（年代、性別、住所、交通手段、来場のきっかけ、当日の歩数）を実施

地域住民への
ヒアリング

地域で楽しむ場・誘い出しの取組を地域のキーマンと一緒にを行う際（65歳以上を対象）に、オープンカフェなどの取組などに対する参加状況やニーズ把握などのヒアリングを実施

+ a

課題：図書館等複合施設の検討を進めることと併せて、各公共施設についても、現在の施設設置条例における設置目的にとらわれず、その在り方について検討する必要がある

- ✓ 昨年度は、にぎわい創出に必要な機能の視点から中央公民館の一部及び八幡公園についてリニューアルを検討、実施
- ✓ にぎわい創出のために公共施設として必要な機能は何かという視点から、他の公共施設（現図書館等）についても検討

中央公民館



次の内容についての検討に着手

- 公民館を利用しやすくするための工夫（雑誌コーナーや勉強機の設置等）
- 1階ロビーを居心地よい空間にするためのリニューアル（R1デザイン設計、R2リニューアル予定）

平成30年度

八幡公園



次の内容についての検討に着手

- 地域住民等と連携した池や堀清掃イベントの実施
- 地元と連携した遊具の塗り替え
- 遊具やベンチ刷新のための寄附制度の創設 など

今後の検討課題

図書館等複合施設の検討を進めることと併せて、各公共施設についても現在の施設設置条例における設置目的にとらわれず、その在り方について検討する必要がある

具体的には



- 図書館等複合施設について、にぎわい創出の観点から三条市体育文化会館の指定管理者や地元NPO等との連携も意識した管理運営の在り方、担い手に求める機能及び役割等の整理
- 図書館等複合施設について、コンセッション方式の採用を見据え、ステージえんがわとの棲み分けを考慮した誘致すべき機能の設定
- 図書館等複合施設供用開始を見据えた現図書館本館、歴史民俗産業資料館の施設機能の見直し

このためには

にぎわい創出のために、公共施設にはどのような機能・役割を付加するべきかの分析が必要

公共施設にはどのような機能・役割を付加するべきかの分析のため、まちなかエリアについて、にぎわい創出の視点で、伸ばすべき強みや克服すべき弱みなど整理

意見照会

?

SWOT分析内容について

まちなかのSWOT分析

- 内部要因
 - 強み (Strength)
 - 弱み (Weakness)
- 外部要因
 - 機会 (Opportunity)
 - 脅威 (Threat)

	S 強み	W 弱み
	S1 公共施設の充実 S2 多くの寺社・小路 S3 事業所の集積地 S4 多くの活動的な人材 S5 魅力的な歴史的建造物 S6 JR北三条駅に近接 S7 周辺の利便施設の充実 S8 社会インフラ維持管理の先進地	W1 高齢化の進展 W2 商店街の衰退 W3 空き家の増加 W4 飲食店の不足 W5 宿泊施設の不足 W6 接続が悪い公共交通 W7 狭い道路と多くの一方通行 W8 伝統技術の衰退
O 機会	《 強みで機会を活かす 》	《 弱みを克服して機会を逃さない 》
O1 SNSの普及 O2 消費者の上質志向 O3 ネット通販の拡大 O4 外国人観光客の増加	・SNSによる情報発信 ・まちなかの各種案内表示 ・インバウンド宿泊体験 ・発掘された人材によるさらなるまちの魅力発見	・空き店舗のリノベーションによる交流人口増加 ・空き家の民間による活用 ・公共交通の見直し
T 脅威	《 強みで脅威に対抗 》	《 弱みを克服して最悪の事態を回避 》
T1 他地域への人口流出 T2 郊外型大型店の進出 T3 病院の郊外への移転 T4 福祉ニーズの増大 T5 多発する災害	・公共施設の魅力アップ ・民間を含むコンテンツの連携 ・JRを活用した誘客 ・周辺の利便施設とのタイアップ ・「社会インフラのまち医者」による素早い対応	・高齢者の誘い出し ・若者の拠点の創出 ・車が必要でないまちづくり

上記の整理を踏まえ、個々の公共施設においても伸ばすべき強みや克服すべき弱みなどを整理

まちなかのにぎわい創出円卓会議において整理した内容を基に報告・意見照会

課題： まちなかを歩いて回ることができるコンテンツの発掘・拡充と、様々なプレーヤーが多彩なコンテンツを創出するための民間活力の導入促進

- ✓ 昨年度は、コンテンツの洗い出しやまちなか活性化のための外部人材の誘致を検討
- ✓ 多様なまちなかのコンテンツの中でも、まずは「町工場」や「職人」に焦点を当て、コンテンツを仕立てることを検討

平成30年度

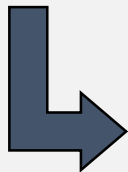
- 庁内検討チームによるコンテンツの洗い出し
- 地元NPO等と連携したまちなかの空き店舗を活用した1日だけのカフェ巡りなど回遊を促すイベントを試行的に実施
- まちなか活性化において全国的に実績のある外部人材の誘致を検討（→今年度予算化、本格実施）



今後の検討課題

まちなかを歩いて回ることができるコンテンツの発掘・拡充と、様々なプレーヤーが多彩なコンテンツを創出するための民間活力の導入促進を図る必要がある

具体的には



意見照会

?

- 多様なまちなかのコンテンツの中でも、まずはものづくりのまちとして「町工場」や「職人」に焦点を当て、「工場の祭典」のエッセンスを取り入れた、日常的にまちなかを歩いて巡れる体験・参加型コンテンツを構築
- えんがわオープンカフェなど既存のイベント等においても、公共施設だけでなく、空き店舗を活用し、テーマ性を持たせ、点と点を結びエリア内を回遊させる
- まちなか現地調査やアンケート調査を実施し、イベント等の効果を検証
- 誘致した外部人材と今後のまちなかのにぎわい創出の方向感を意識共有するとともに、地元NPOや地域おこし協力隊などのプレーヤーとの連携を促し、民間活力による新たなコンテンツの創出を図る

- ・（歩いてでも行きたいと思わせるほど）人を惹きつけるコンテンツに必要な要素や先進事例
- ・民間が主体的に動ける環境づくりに必要な支援

課題：まちなかを歩いて回る楽しさを創出する手法の検討・実施と、歩くことを選択する、もしくはせざるを得ない道路環境整備の手法の検討・実施

- ✓ 昨年度は、小路の魅力発掘事業や先進地視察などによる事例収集を実施
- ✓ 小路を活用した歩きたくなる道路空間づくりと、図書館等複合施設の基本計画と調和した周辺道路や公共交通の在り方を検討

小路の魅力発掘事業



地元自治会による八幡公園周辺のプランター設置とオリジナル行燈の作成と設置など

平成30年度

三条マルシェでの小路活用



先進地視察



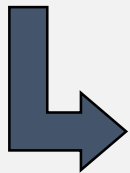
大分県竹田市
歴史ある街並みを活かした回遊性のあるまちづくり



今後の検討課題

歩くことを選択する、もしくはせざるを得ない道路環境整備の手法の検討・実施

具体的には



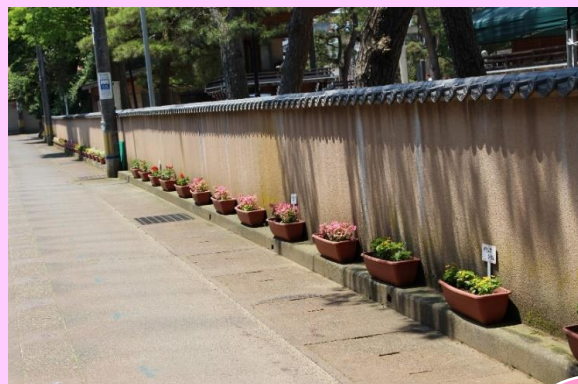
- 図書館等複合施設へのアクセス路を検討する上で、車両流入規制や生活道路安全対策（ハンブ・シケイン）がより効果的な路線を抽出する
- 図書館等複合施設に面した周辺道路について、車のアクセス路を想定した上で、歩行者路との棲み分けや歩車共存道路を施設設計受託者とともに検討し整備案を作成
上記のほか、大通りなどについてもこれまでの既成概念に捉われず必要な候補路線を調査・選定
- 図書館等複合施設・体育文化会館を含めたまちなかエリアへ至る、またまちなかエリア内の公共交通の在り方の検討

まちなかを歩いて回る楽しさを創出する手法の検討・実施
(⇒次頁に記載)

今後の検討課題

まちなかを歩いて回る楽しさを創出する手法の検討・実施

●「小路の魅力発掘事業」の充実



【主な事業効果】

- ・共同作業を通じたコミュニティのつながり意識醸成
- ・八幡公園周辺の道路空間の魅力向上

【今後の課題】

- ・他小路（道路空間）への面的展開

【今後の事業展開（案）】

線としてのプランター設置から一步進み、面的な広がりしていくために、協力いただける個々のお宅の軒先に様々な形の鉢植えを配置し、小路を歩くことで個々のお宅のガーデニングを楽しめる道路空間づくりを進める。

一方で、鉢植えに一定の統一感を持たせる（例えば「ブラウン系」や「木質系」）ことで、歩く人達に小路全体の面としてのつながりを感じさせるよう工夫する。



現在の小路の魅力発掘事業
（地元自治会による八幡公園
周辺のプランター設置、
オリジナル行燈の作成と設置等）

意見照会

？

人が歩くことを楽しめる、もしくは歩くことを積極的に選択するための道路空間に必要な要素、先進事例

●歩くことを誘発するための道路空間づくり

“三條プロムナード”が繋ぐ地域コミュニティ



図書館等複合施設の設計業務受託者において、施設に至るまでの道路空間づくりにおいても左図、下図のような様々な提案があったため、まちなかのにぎわい創出円卓会議の意見も踏まえながら、これら提案の実現可能性について検討を行う。

（提案例）「研究の結果、30mごとにサインや目印がないと、連続して歩く動機を失ってしまうため、道路空間における工夫が必要」など



ローカル歩道サイン



まちなかファニチャー



屋外活動誘発ボックス